

県民保協たより

発行所 一般社団法人岡山県民間保育所協議会調査広報委員会 印刷所 二華園印刷 ☎ 086-526-6633



「津山まなびの鉄道館」(津山市)

翔

夕方になると一日のお仕事を終えたお母様方が子どもたちをお迎えに来られる。子どもたちは迎えを受けた後、満面の笑みで遊具に駆け寄り遊び始める。お母様は「仕方ないわね」という仕草を見せながらも、とても優しい表情で我が子を見守っている。保育園ではよく見る光景だが、私はこの時の子どもの笑顔が好きだ。友達と遊んでいる時の顔とはまた違い、とても穏やかで幸せそうな笑顔に見える気がする。子どもにとって「私」の保育園でお母さんが一緒に遊んでくれるのは至福の喜びなのだろう。

また子どもは、疲れていても優しい気持ちで見守ってくれている親心を、無意識のうちに感じ取っているかもしれない。親子の温かい絆を感じる事ができる素晴らしい光景だ。最近、乳幼児に対する虐待の報道を目にする事が多いが、加害者の多くは自分が乳幼児期に受けた精神的苦痛により虐待行為に及ぶと聞いた事が有る。ならば被害者のみならず加害者にとっても悲劇ではない。我々保育者は親子の絆を育むお手伝いを通じて悲しい出来事を少しでも減らし、幸せに満ちた笑顔を増やす事ができたならなんと素敵な事だろう。

細羽 博

園長研修会報告

幼保連携型認定こども園

小ざくら保育園を視察

園長 財前 巨先生の

開催した思い

魅力づくりとして取り組んでいくことが必要であると思います。

平成二十七年に、幼保連携型認定こども園へ移行してわからないことがわからない状況から少しずつ脱してきたところに、今回の研修のお話をいただきました。何を研修したら良いのだろうかと思いましたが、改めて二十七年度を振り返る機会をいただいたと思いなおし研修を受けた次第であります。

改めて「幼保連携型認定こども園に変わったメリッとは？」と問われると未だに迷うことがあります。当園にとつては、一号認定児の定員を満たすことで、職員配置や運営の体制を強化できるというメリットとともに、保護者の保育ニーズに合わせた受け入れができることを含めて園としての

岡山県内では、新制度の幼保連携型認定こども園は、あまり移行が進んでいません。既存の制度とどのように折り合いをつけていくか、行政側のこども園への推進姿勢があまり見えな

いからだと思えます。今後は子育て支援を含めて制度が充実していくことを期待しております。最後になりますが、十分な説明も対応もできませんでしたが、多数の見学の方に来ていただきありがとうございます。ありがとうございました。

今後も保育内容を含め、より良い園づくりに取り組んでいきたいと考えております。

幼保連携型認定こども園

小ざくら保育園

園長 財前 巨

参加者の感想

去る、平成二十八年二月十二日に開催された園長研修会に参加させていただいた。主な内容としては平成二十七年より開始された、「子ども・子育て支援新制度」により、保育所から幼保連携型認定こども園に移行された、社会福祉法人クムレが運営される小ざくら保育園の施設見学と、施設長である財前園長先生による法人及び施設の紹介と、施設形態移行の目的やその事務作業の労苦などの解説であった。

研修当日は、新制度開始初年度に移行をされた施設が、民間では、県内で唯一ということもあってか、

六十名を超える園長先生方が参加されており、その関心の高さが伺われた。

まずは、研修会場である水島愛あいサロンから三班に分かれてバスで移動して、順に施設を見学させていただいた。小ざくら保育園は、小ざくら乳児保育園が隣接しており、認定こども園には、二歳以上児が在籍しているとのことであった。(一号認定こども園は定員十五名に対して五名在籍、二号、三号は定員いっぱい二百四十名在籍)

その後、財前園長先生のお話を聞いた。最初に、法人の理念や歴史などから説明を頂いたが、やはり認定こども園への移行についてのお話に興味を引かれた。先駆者としての労苦や、決算額の変化、メリット・デメリットなどについても出し惜しみ無く話してくださったので、本当に参考になることばかりであった。お忙しい中、大役を引き受けて下さった財前園長先生に改めて感謝を申し上げます。

大崎保育園

園長 金崎 雅彦



参加者の感想

平成二十八年二月十二日に水島愛あいサロンと小ざくら保育園にて、ご講演及び視察をさせていただきました。

認定こども園への移行準備から現在までの率直なお話が印象的でした。

まず、制度が始まったばかりで、事務的な手続きにおいて不明確な部分も残っており、行政に問い合わせるもすぐに返答が来ない実状がある。また、ある程度予想はしていたが、事務的な作業が増加している。複雑な登降園や延長保育への対応に、カードによるシステムを導入している。未収金への対応も必要となった。

経理面では、小ざくら保育園は二歳児以上の園（〇・一歳児は同一敷地内に乳児園があるため）ではあるが、認定こども園に移行して収支はゼロからプラスの方向に改善されている。一号認定のこども（定員十五名で在園児五名）の確保が課題ではあるが、地域的に需要はある。今後は、内容において一号認定こども

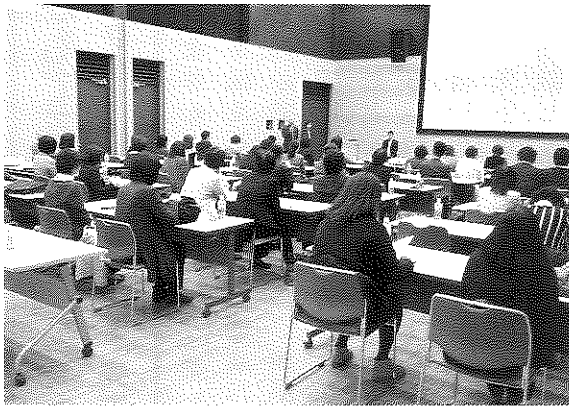
と二号認定こどもの差別化が課題である。

移行までの準備期間においては、保護者と職員への説明が重要で複数回行った。事務的な面では、「教育保育の目標」作成において教育委員会とのやり取りに時間を要した。市単補助金について、認定こども園は対象外になるものもある。幼稚園部分は県制度の補助金対象になる等確認を要する。

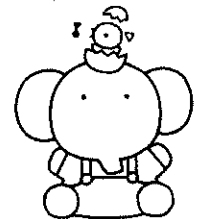
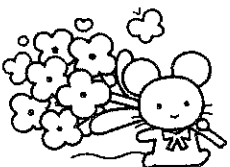
以上のように貴重なお話を伺うことができ感謝申し上げます。

あすなる保育園

園長 原谷 雅彦



岡山県民間保育所協議会主催 保護者研修会報告



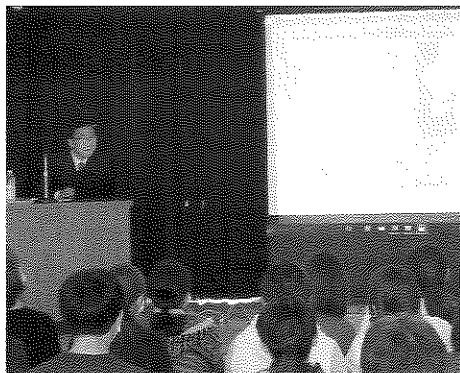
『モンテッソーリ教育に学ぶ
子どもの見方、接し方』

日本モンテッソーリ教育総合研究所
上席研究員 松浦 公紀 先生

二月十三日（土）大福保育園のホールで、本園及び姉妹園の保護者と職員、地域の方、約百五十名が参加して、講演会を開催しました。

日本におけるモンテッソーリ教育の第一人者である松浦先生に「モンテッソーリ教育に学ぶ子どもの見方、接し方」という演題で、子育てや子どもの教育方法についてのお話をしていただきました。様々な能力の獲得にはそれぞれに最適な「敏感期」という時期があり、敏感期に合った環境を整えることによって、子どもが自分の力で育っていく力を身につけることができる。大人は、その環境を適切に用意し、見守ることによって、新しい子ども姿が見えてくるはずだということを教えていただきました。

また、大人は常に子どもにこうしてほしいということがあったら、まず自分たちがそうすることが必要だというお話を聞き、日頃の子どもへの接し方を省みる良い機会となりました。とても分かりやすく、すぐに日々の子育てに活かせる素敵なお話でした。



大福保育園

園長 太田 哲生

『親も子どもに自信がもてる子育て』

親業インストラクター 江崎 英子 先生

二月十三日(土) 新川保育所で保護者と職員を対象にした研修会を開催しました。

内容

「心を伝える」

「正直な気持ちを伝える」親が子どもにありのままの気持ちを話した経験の積み重ねで、自分で考えて行動できる自立することができる子どもに育つ。子どもに伝える時は、子どもの評価

よりも「うれしい」「楽しい」を伝える。子どもに最高の贈り物ができるとしたら、親が楽しんでいられることを伝えることである。思いを伝えきつたら「わかった？」など確認作業はいらない。

先生自身の子育ての体験談もお話しくださり、子どもの為に思っ一生涯懸命にやってきたことが、結果、子どもを追い詰めていることもある。「親が子育てを楽しむことが、子どもの為になりますよ。子育てをありのまま楽しみましょう。」とお話してくださいました。

保護者の感想

先生の体験談をお聞きして、子育てで悩んでいるのは私だけではないのだな。皆同じように不安を感じて迷ったり悩んだりしているのだなとわかり、気持ちが楽になりました。子どもに「心を伝える」接し方をしてみようと思います。

新川保育所

副所長 小泉 英恵



『子育てで育まれる親心』

『社会に信頼関係が育つとき』

元・埼玉県教育委員長 松居 和 先生

八月六日(土) 岡山ふれあいセンターで保護者研修会を開催しました。

内容

幼児は人間たちのコミュニケーション能力を高め、感性を引き出すことができる。人間は幼児とつきあうことで、社会という複雑なパズルの組み方が上手になってくる。

親子は互いに育てあい、育ちあつていく。子育てを経験することで「人間性」や「信頼関係」

が育ち、社会にモラルと秩序が生まれてくる。「子はかすがい」ではなく「子育てこそかすがい」であると子育ての重要性を話された。

また、保護者が園で一日保育士体験を行うことで園との相互理解が深まり、信頼関係の構築につながっていくとのことでした。

保護者の感想

「子どもを育てることで、親として成長する」と頭ではわかっていても、日々の暮らしの中で、子どものすることにイライラしたり、大きな声を出したりしてしまい、子どもの寝顔を見て反省することの繰り返し。そんな中で聞いた松居和さんの講演。子どもが生まれた時の喜び、言葉の通じない赤ちゃんとのやり取り、思うようにならない相手とのコミュニケーションに一喜一憂しながら「親心」が育つていくことに改めて気付くことができました。

のぞみ花の子保育園

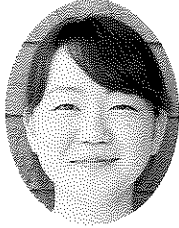
園長 後藤 尚美



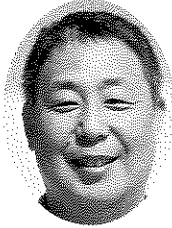
新任園長紹介



〈岡山市〉
のぞみ花の子保育園
後藤尚美先生



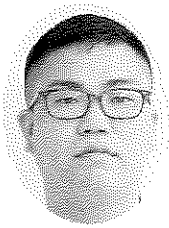
〈岡山市〉
どんぐり保育園
山根奈保子先生



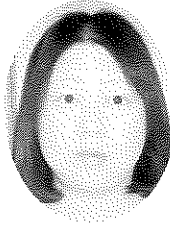
〈岡山市〉
玉井桜保育園
矢部 真先生



〈岡山市〉
高島第一保育園
菊池房子先生



〈岡山市〉
第三古備保育園
槌田修也先生



〈岡山市〉
紅陽台ちどり保育園
野口麻里先生



〈倉敷市〉
みらい保育園
亀高弥貴子先生



〈倉敷市〉
真言保育園
岡野千恵子先生



〈倉敷市〉
中洲保育園
山口浩子先生



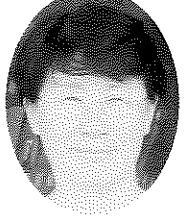
〈倉敷市〉
ちゃや保育園
星島 泉先生



〈倉敷市〉
聖和保育園
滝本文明先生



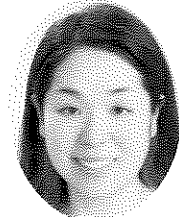
〈岡山市〉
桃太郎保育園
信江恵美子先生



〈岡山市〉
もみの木保育園
森田幸子先生



〈総社市〉
すずらん保育園
小野千加代先生



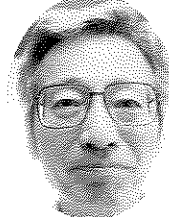
〈井原市〉
出部保育園
阪田典子先生



〈笠岡市〉
若竹保育園
高橋敦子先生



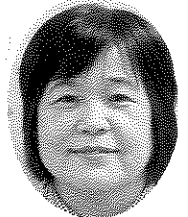
〈津山市〉
福岡保育園
松本雅裕先生



〈津山市〉
KOKKO 保育園
小島純一先生



〈津山市〉
国分寺保育園
中村真也先生



〈津山市〉
久米保育所
林原郁恵先生



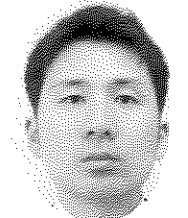
〈都窪郡〉
かんだ保育園
中野美華先生



〈浅口市〉
敬親かがた保育園
石部みどり先生



〈総社市〉
第二すずらん保育園
小坂早苗先生



〈総社市〉
スマイル保育園
小川幸宏先生

再任園長紹介

大原正義先生
遍照保育園の園長先生に
再任されました。

兼任園長紹介

石原仁美先生
・認定こども園白ゆり
・白ゆり小規模保育園
両園の園長を兼任

転任園長紹介

大西美子先生
鳥の子保育園↓
笹沖保育園へ
藤井美子先生
笹沖保育園↓
鳥の子保育園へ

認定こども園に
移行しました

岡山市 岡北保育園↓
岡北学園
岡山市 白ゆり保育園↓
認定こども園白ゆり
倉敷市 三宝保育園↓
三宝認定こども園

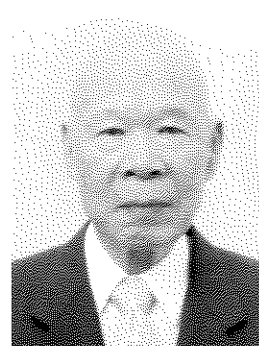
園名変更

平成二十八年四月一日から
笠岡市 笠岡保育所↓
笠岡保育園
平成二十八年七月一日から
加賀郡 双葉保育園↓
にこにこふたば保育園

法人変更

金浦保育園 (笠岡市)
社会福祉法人に変更。

稲垣宗孝先生
瑞宝双光章受章



稲垣宗孝先生は正福寺の住職であった師父泰成先生が寺の資金の一部を寄付して設立した財団法人橋会たちばな上中野保育園の園長に昭和四十七年に就任。六十三年から四年間は社会福祉法人橋会理事長に。その後、法人は財団法人から社会福祉法人となり、保育園は多くの資金を寺院の寄付など自己資金で賄いながら、数回の増改築を経て、定員百八十名のたちばな上中野保育園となりました。その間には日本保育協会岡山支部青年部長や同支部役員、岡山市私立認可保育園園長会長を歴任され、また地域では民生委員として活躍されるなど多大なご功績がありました。今後もご健康にご留意され、実直なお人柄で岡山市の児童福祉の向上の為、ご指導いただきますようお願い申し上げます。

(同前記)

白ゆり小規模保育園 (平成28年4月1日開園)

岡山市北区伊福町2丁目30-1
(福) 白ゆり会 定員19名

岡山駅周辺の街中で、3歳未満の乳幼児を、少人数制という利点を活かしながら、家庭的な雰囲気の中、きめ細かい保育と親支援を積極的に取り組んでいきたいと思ひます。 園長 石原 仁美

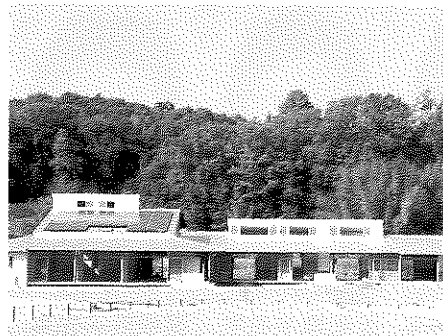


新規加入園紹介

もみの木保育園 (平成28年4月1日開園)

岡山市北区新庄上1357
(福) 子育てサポートもみの木 定員75名

「健康な身体をつくり能動的に生きる子を育てる」をめざし、子どもが仲間と共に豊かな自然の中で遊び込める保育園を保護者や地域の方の協力を得て職員一同努めていきます。 園長 森田 幸子



どんぐり保育園 (平成28年5月1日開園)

岡山市北区今7丁目17-7
(福) 東光会 定員19名

「やさしく きびしく たいせつに げんきな子どもを育てる」を保育目標に、心をこめた明るく温かい保育を目指しています。よろしくお願ひします。 施設長 山根 奈保子



この機関誌は、共同募金より一部助成を受けています。



表紙のことは「津山まなびの鉄道館」

津山まなびの鉄道館は、我が国に現存する扇状機関車庫の中で、二番目の規模を誇る「旧津山扇状機関車庫」や収蔵車両を中心とするさまざまな展示と憩いの施設で構成されている。津山の地に残る価値ある鉄道遺産を後世にしっかりと伝えていくとともに、私達の暮らしに深くかかわっている鉄道の成り立ち、社会や地域とともに発展してきた鉄道のあゆみ、しくみの変遷について学ぶことができる今津山で注目の施設である。

西口 元庸

編集後記

リオのオリンピック・パラリンピックでは日本選手が活躍し、メダルの獲得が相次ぎました。特に体操や卓球などの団体戦で、選手たちが励まし合い、お互いを補いながらチームワークで勝ち進んでいく姿は、日本人特有の文化と人間性を見るように、忘れていたものを思い出させてくれた大会でした。

御多忙の中、原稿をお寄せいただいた方々に心から御礼を申し上げます。

(山名記)